

第20回母から子への手紙コンテスト 上位入賞作品を紹介します

原文のまま掲載

「読みきかせ」という言葉を聞くと、お母さんの心は少しチクッとします。
あなたたちが小さい時、お父さんはたくさん絵本を買ってくれました。でも帰ってくるのはいつも夜中。今でいうワンオペ育児だったお母さんは、毎日くたくたでした。
あなたたちを寝かしつけたと思ったら、お布団の中から「ママ読んで」と二人の声。そのたびに「また今度ね」。たまに読んであげても、お母さんが先に寝てしまったり。読みきかせをしてもらった子は心が豊か、とか聞かされた時に、あなたたちに大切な時間をあげられなかった自分を責めてしまうのです。
でもこの間、二人が「お母さんの作ったくまさんの話おもしろかったね」「うん、お母さん途中で眠っちゃうから続きを私たちが作ったよね」「絵本も続きが読みたくて、お友達の中で一番早く字を覚えたんだよね」と話しているのを聞いて安心しました。あなたたちはとても心豊かに育っていたのですね。

あなたが小学校低学年だった頃に言った言葉は、今も私のお気に入りです。
「お母さんが生まれた時からずっと好きで、お腹の中にいたんだよ。全部見てたよ。」
一見ホラーな言葉に笑ったけれど、冴えない自分の過去が明るい幸せなものになりました。私が中学の時仲良かった友達と喧嘩し絶交して後悔した日も、恋人にフラれて泣いたバスも、入りたかった会社の面接に落ちた時も、あなたが傍（体内？）に居て見ていたのかなと考えてみると、嫌な思い出だったのが、心がわりと暖かくなります。落ち込む過去の自分の元へ行き、「大丈夫。あなたを丸ごと好いてくれる可愛い子が近くで見ているよ。将来会えるよ。」と教えてあげたい。
そして現在悩み多き中学生の娘よ、いつかあなたが言ったのと同じ事を言う女の子か男の子が今すぐそこあなたを見ているかもしれないよ。だから頑張つて。とんでもない幸せをありがとう。心から愛しています。

大賞作品 中村裕子さん（香川県）

準大賞作品 並木みどりさん（神奈川県）



大賞作品を朗読する中村さん

Pick Up

今月のイベント

母から子への手紙 コンテスト表彰式

第20回母から子への手紙コンテストの表彰式は12月5日、学びいので行われ、大賞を受賞した中村裕子さん（香川県）らを選ばれました。表彰式では、八子弥寿男実行委員長と前後公町長があいさつし、八子実行委員長が各賞の受賞者に賞状を手渡した後、渡辺真一郎町議会議長が祝辞を贈りました。
また、審査委員長を務めた芥川賞作家で福聚寺住職の玄侑宗久さん、元NHKアナウンサーで春日居郷土館・小川正子記念館名誉館長の末利光さん、エッセイストの大石邦子さんが講評し、末さんが「コロナに翻弄された家」と題して講演しました。
母から子への手紙コンテストは、本町出身の医学者・野口英世博士の母シカが、渡米中の野口博士に宛てて書いた手紙にちなみ、母と子の絆を感じてもらおうと、平成14年から毎年開催されており、全国各地からわが子への愛情をつづった多くの手紙が寄せられています。
今回は、全国から1660点の応募があり、町内の1次選考委員が入賞50作品を選出。最終選考会では、玄侑さん、末さん、大石さん、1次選考委員代表の楠美枝子さんの4人が厳正に審査し、大賞などの各賞を決定しました。

まちの応援マガジン いなわしろ 広報 猪苗代

Jan.2022
1
No.735



【撮影日】11月27日
【場所】ひまわりこども園

今月の表紙

ひまわりこども園保育発表会で白虎隊の剣舞を披露するひまわり組2組の森田怜楠ちゃんです。【関連7ページ】

Contents — 【目次】

- 02 年頭のごあいさつ
- 04 Pick Up
- 05 第20回母から子への手紙コンテスト
- 06 まちのわだい
- 08 いなわしろタウンページ
- 16 暮らしの情報広場
- 18 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー